

○担当地区：亀岡市 片岡未裕希さん(南丹広域振興局)



ひとりひとりの思いを大切に、触媒のような働きができればと思います。持続可能性や自立的な発展性を重視し、私自身が家族と共に移住したいと思えるような「命の里」づくりのお手伝いをしていきたいです。

○担当地区：南丹管内 檜垣誠司さん(南丹農業改良普及センター)

研修では仕事の方向性のレクチャーを受け、期待の大きさを感じるにつれ、これからどうしていこうかと考えています。ただ考えるだけでは何も進まないの、まずは動くことを目標に頑張っていこうと思っています。



○担当地区：綾部市・舞鶴市・福知山市 井上悟さん(中丹広域振興局)



水田稲作社会から生まれてきた文化・風土を大切に、単純に貨幣換算できない農山村の持つ多面的機能を再評価しながら、農山村部の人々の営みの条件整備を、地元の方々と一緒に実施していきたいです。

○担当地区：舞鶴市・福知山市 細井大さん(中丹東農業改良普及センター)

人口減少や雇用状況の厳しさといった「元気のない言葉」に縛られすぎているような気がします。発想を転換し、地域が持つ本当の魅力・実力を地域の方々と協働しながら見つけ出し、再生と発展に繋げていきたいです。



○担当地区：京丹後市 瀬野史朗さん(丹後広域振興局)



丹後管内に赴任して思ったことは、とにかく遠い、広い、しかし「きれい」です。丹後のロケーションは最高で、頑張ろうという元気が出ます。これを次世代に繋いでいくため、皆さんと一緒に取り組んでいきたいです。

○担当地区：与謝野町 瀬戸谷隆治さん(丹後農業改良普及センター)

農業改良普及指導員の経験を生かし、より幅広い視点で取り組んでいきたいと思っています。地域の人々との対話を大切にしながら、「命の里」の再生にむけ一歩一歩進んでいきたいと思っています。



○担当地区：宮津市 田淵功さん(丹後広域振興局)



幼少の頃過ごしたこの地域には強い思いがあります。赴任以来多くの思いを持った「人」に出会いました。丹後半島には、豊かな自然と調和、格闘しながらも、脈々と受け継がれた暮らしがあります。地域の方々と知恵と力を出し合い、「人」が元気に暮らせる地域づくりに取り組みます。

特集
4

有害鳥獣捕獲の担い手1000人確保をめざして！
～狩猟の担い手育成対策がスタート～

京都府のシカ・イノシシなどによる農林業被害金額は、8億5千万円（平成20年度）。農林家の生産意欲の減退など、地域振興にも深刻な影響を与えています。

特にシカによる樹木の皮はぎ、森林の下草の食害は、樹木を枯らしたり、土砂の流出を引き起こすなど、国土を守る上でも大きな問題です。

この被害対策の一つとして、狩猟や有害鳥獣捕獲により生息数を調整する「個体数管理」があります。有害鳥獣捕獲は、市町村が組織する捕獲班が実施しており、捕獲数は、捕獲班員の皆様の奮闘のおかげで、年々増加しています。（図-1参照）

しかし、京都府内の捕獲員数は、（図-2）毎年減少し、平成22年度は900名足らずと見込まれており、高齢化も進む中、このままでは、安定的な捕獲が維持できなくなります。

このため、捕獲班員1000人の確保に向けて、地元消防団や警察OBなどへの勧誘活動を行うとともに、捕獲猟具を確保するため、市町村を支援するなどの担い手対策を実施します。（図-3）

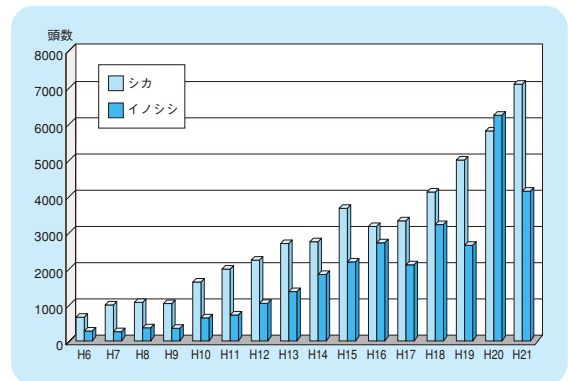


図-1 主要獣類有害捕獲数

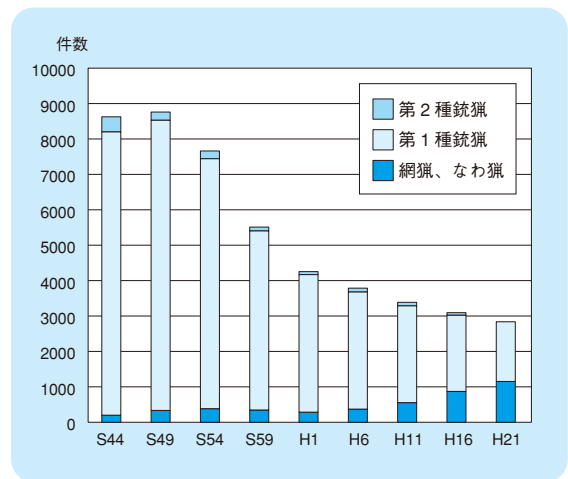


図-2 狩猟者登録数の推移

※第1種銃猟とは散弾銃やライフル銃などを使った狩猟
※第2種銃猟とは空気銃を使った狩猟

狩猟の担い手育成の進め方

狩猟免許取得の推進

→有害捕獲班員を確保するための勧誘活動

① 狩猟の担い手勧誘活動

地元消防団や警察OB等へ市町村と連携して新たな担い手確保のための説明会、戸別訪問による勧誘活動を実施

- ・消防団員等への勧誘活動
- ・現地見学会の開催

狩猟免許取得

有害捕獲猟具の確保

→市町村による猟銃の譲渡を支援

② 有害捕獲猟具の確保等

参入促進を図るため、費用負担の大きい猟銃を市町村が譲渡する場合の経費に対する支援

- 対象：新規参入者
- 市町村による猟銃譲渡

図-3 狩猟の担い手育成対策のスキーム

有害鳥獣防護柵展示コーナーを設置 農林水産技術センター（亀岡）

管内の市町村や府の農林業関係機関で構成する南丹野生鳥獣被害対策チームが中心となり、農林水産技術センターのほ場に防護柵メーカーの協力を得て、防護柵の展示コーナーを設置しました。

電気柵、樹脂ネット柵、金網柵など20種類の防護柵を展示し、対象動物別の防護柵選定や田畑の地形に応じた設置方法、資材の経費などが現物を見て府民の方にご理解いただけるように工夫しています。また、併せて設置方法などのパンフレットも作成しました。

今後、防護柵の設置を検討されている方には、あらかじめ下記までご連絡をいただければ、職員が説明を行いますので、是非お越しください。



農林水産技術センターの防護柵展示コーナー（亀岡市）



防護柵設置パンフレット

南丹広域振興局農林商工部森づくり推進室 森林管理担当 TEL:0771-22-0426

逆転の発想！ 有害獣である猪や鹿を活用して新たな地域振興を

京丹後市では、農作物に対する鳥獣の被害が甚大で捕獲頭数の増加や猟友会員の高齢化に伴い、埋設などの処理が大きな課題となってきました。この度、農山漁村活性化プロジェクト支援交付金を活用し、猪、鹿の食肉を提供する衛生的で近代的な施設が完成しました。

これらの食材が、丹後でしか味わうことのできない地域資源として定着し、観光客の誘引へとつながることに期待が寄せられています。

なお、食肉処理をする際に発生する骨、角、皮については、ドッグフードや肥料等の原料として活用されます。



完成した猪・鹿肉処理施設



〈猪バラ肉〉

丹後広域振興局農林商工部地域づくり推進室 計画管理担当 TEL:0772-62-4307

製茶工場が完成し、丹後も宇治茶産地としてキックオフ

丹後でのお茶づくりを担う京丹後製茶株式会社の製茶工場が京丹後市久美浜町に今春完成し、4月16日にお茶農家をはじめ関係機関の出席のもと竣工式が開催されました。

茶工場には煎茶などを作る機械と抹茶原料となるてん茶を作る機械があり、大型の乗用型摘採機で収穫された茶葉が持ち込まれ、計画的な製茶作業が行われています。

地元で製茶工場が完成したことで、お茶の品質向上だけでなく、さらなる茶園面積の拡大にも期待が高まっています。



盛大に行われた竣工式
(茶工場の生葉受入れ場付近でテープカット)

丹後広域振興局農林商工部企画調整室 農業振興担当 TEL:0772-62-4305

人と環境にやさしい農業を積極的に推進します

安心で安全な農産物や環境保全に対するニーズが高まる中、広く府民の皆さまの理解を得ながら、有機農業を含めた環境への負荷を低減する「人と環境にやさしい農業」を積極的に推進するため、今後5年間の取組方針を「京都府人と環境にやさしい農業推進プラン」として取りまとめました。

このプランでは生産地と消費地が近く「人と人とのつながり」を育みやすい京都の強みを活かし、「環境保全」の実現と「安心・安全な農産物」の生産を目標とし、生産者だけでなく消費者にとっても魅力のある「人と環境にやさしい農業」を右の3項目を基本として取り組んでいきます。

プランの概要

①環境にやさしい農業の生産拡大

- ◆環境にやさしい農業技術の定着・拡大
- ◆生産を安定させる栽培技術の開発
- ◆有機農業の推進
- ◆推進体制の整備

②環境にやさしい農産物の販売促進

- ◆既存流通における新たな販売展開
- ◆多種多様な流通による販売促進

③生産者と消費者の相互理解の増進

- ◆情報の一元管理による受発信体制の強化
- ◆生産者と消費者の架け橋づくり

京都府のホームページ(<http://www.pref.kyoto.jp/nosan/1268701700284.html>)で、推進プランの詳細な内容などについて紹介しておりますので、是非、ご覧ください。

農産課 環境にやさしい農業推進担当 TEL:075-414-4966

初の
試み!!京都縦貫自動車道「由良川PA(パーキングエリア)」で、
農林産物の直売を試行!

高速道路無料化社会実験の実施により京都府北部への観光客等の増加が見込まれる中、中丹広域振興局では、JA京都にのくに直売所「彩菜館」の協力により、5月16日(日)と23日(日)に京都縦貫自動車道「由良川PA」において、農林産物直売所を試験的に開設しました。

2日間でパーキングエリア利用者のうち約400人が直売所を訪れ、生産者と交流して買い物を楽しまれるなど、中丹地域の農林産物をPRすることができました。

今回の結果を踏まえ、直売所の定期的な開設に向けた検討を行います。



新鮮な農林産物を買求めるPA利用者(5月16日)

中丹広域振興局農林商工部企画調整室 総務企画担当 TEL:0773-62-2508

伊根湾の舟屋を巡る海上タクシー

舟屋は、与謝郡伊根町にある民家の種類のひとつであり、湾を囲むように約230軒が建ち並び、舟屋と海がおりなす景観が大変美しいため、映画やテレビなどで取り上げられることも多く、観光スポットとして全国的にも有名です。

この舟屋は、厳しい風波の影響を受けにくく、年間の潮の干満差が数十cmしかないこと等から、海岸に沿って海面すれすれに建てられています。

1階は海から直接船を入れられる納屋、2階は海に突き出した居住用となっており、江戸時代中期頃から存在していたと言われています。

今、伊根湾では、美しい景観を海の上から眺められるよう地元漁船による海上タクシーが運行されています。所要時間は約30分で、お勧めのスポットや伊根のくらしについても案内していますので、是非ご利用ください。



水産課 漁政企画担当 TEL:075-414-4992

京野菜マイスターを新たに認定!

(社)ふるさと産品協会では、京野菜の生産や流通、料理などについて卓越した技術や知識を持つ方を、「京野菜マイスター」として認定しています。

今回、新たに4名の方を認定し、全員で19名になりました。

京野菜マイスターの皆さんには、今後、京野菜の消費拡大や京都の食文化の普及推進に御活躍いただきます。

認定式の様子
(前列左から内田さん、北尾さん、村田さん、森谷さん)

研究普及ブランド課 ブランド推進担当 TEL:075-414-4940

「京野菜マイスター」認定 ホームページ <http://kyo-furusato.jp/meister/index.html>

きょうと農商工連携応援ファンドの
活用事例シリーズ 第1回

九条ねぎ味噌の開発 伊根町発

「きょうと農商工連携応援ファンド事業」では、府内の農林漁業者と中小企業者が相互に連携し、それぞれの強みを活かして新商品開発や経営のステップアップを図る取組を支援するものです。

平成21年度に採択された「伊根町で施設園芸を営む岩井龍也さん」と「同町の筒川味噌の会」は、九条ねぎ味噌や伏見とうがらし味噌を開発。現在は今秋の本格販売をめざし、農業ビジネス応援隊※の支援を受けながらパッケージデザインを考案中です。

こうした農商工連携については、農業ビジネスセンター京都(TEL:075-417-6888)または各広域振興局農林商工部企画調整室までお問い合わせください。



※農業ビジネス応援隊とは各種の専門家で構成されており、個別具体的な課題について、助言・指導を行います。

「農業経営体育成事業」を創設しました

京都府では、地域の雇用拡大と所得の向上を目指す農業法人等の経営体を支援し、地域経済の活性化につなげるため、融資・補助一体型の農業経営体育成事業を創設。

この事業は意欲ある農業経営者の方々を対象とした公募事業であり、8月24日(火)に開催の「きょうと農業ビジネス応援フェア2010」で募集内容を説明する予定です。詳細については各広域振興局農林商工部企画調整室までお問い合わせください。

担い手支援課 農業ビジネス担当 TEL:075-414-4908

広告

思い出していただける笑顔と共に、
京都最大のネットワークでご来店をお待ちしております。

Honda Cars 京都

<http://www.hondacars-kyoto.co.jp>

広告

私たち三共精機株式会社は、ものづくりに関わるお客様の「課題解決」の提案をおこなう機械工具の専門商社です。

ものづくりに関する一員の責任として地球環境の保全に尽力しております。レアメタルの回収・リサイクルで得た引取代金を活用し、大学・地域社会と連携して森林を守る「モデルフォレスト活動」にも参加しております。

豊かな社会づくりのため、地球保全への一歩となる手段の模索のために、アクションを張り続け、三共精機は発信し続けます。

人と人、人と森
そして、過去と未来を結ぶ
つながりの森を創る

三共精機株式会社
本社 京都市南区吉祥院九条町40番地
<http://www.sankyo-seiki.com/>

▶ 広告について 京都府においては、府民の皆様からお預かりしている大切な府有資産等(ホームページ、印刷物、施設等)を有効活用して得られた収入を、府の政策実現に活用し、府民満足の向上を図るため、平成19年12月から広告事業に取り組んでいます。平成22年5月に記者発表やHPを通じた公募を行い、応募いただいた民間企業等の広告を本冊子に掲載しております。

発行/平成22年7月

編集/〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入 京都府農林水産部農政課 TEL:075-414-4946 E-mail:nosei@pref.kyoto.lg.jp

～いま ここに あなたと いると ホットする 言って、言われる ひとになりたい～

京都市人権啓発推進会議設立25周年人権メッセージ「わたしのひとこと」コンクール 最優秀賞(一般の部)